【俳句（はいく）にチャレンジしよう】

参加しよう

はじめて五・七・五 俳句

文 塩見恵介

俳人。甲南中・高（兵庫県芦屋市）国語科教諭。同志社女子大俳句講義担当。句集に『虹の種』『泉こぼ』など。

イラスト・milkpillow

はいくでクイズ

今日は、季節についてのクイズだよ。

問題 「蠅」は夏の季語だけど、「五月蠅い」と書いて、なんと読む？

A かわい（い）
B ちいさ（い）
C うるさ（い）
D うっとうし（い）

塩見先生

「蠅」っていつの季語？

答え C

実は、今と昔は暦がちがっている。昔の人の「五月」は今の6月ごろで、梅雨の時期に相当する。だから、「五月雨」は梅雨の長雨のことだし、「五月晴れ」とは梅雨の中のつかの間の晴れ間を指すんだ。

この「五月蠅い」も、「五月」の時期、生き生きと飛び回る蠅のようすからの言葉だ。もっとも、昔は「五月蠅なす」という言い方のようだった。それが明治時代（1868～1912年）になって、小説家の夏目漱石や樋口一葉が、「うるさい」という言葉に「五月蠅」を当て字にして書いて、一般的になったんだよ。ちなみに害虫としていやがられる蠅、俳句では、案外身近な虫として登場する句が多いよ。

「五月蠅い」って？…

かわいい

ちいさい

うるさい

うっとうしい

だいご

「五月蠅い」という表現、夏目漱石の「坊っちゃん」、樋口一葉の「十三夜」にあるよ

なのか

「冬の蠅」は、逆に弱々しく俳句でよまれる季語だね

◆俳句を送ってね

104-8433 朝日小学生新聞「はじめて俳句」係

住所いらないよ

名前
〒住所 電話番号
学校名／学年
俳句をね
送ってほしいな夏の空

【おねがい】俳句は必ず自分で作った句を送ってください。ほかの人の句をまねすると、作った人の「著作権」という権利をおかすことになります。

◆おこしとわり 「選句コーナー」はしばらくの間、お休みします。俳句は引き続き募集しています。

＜　5/25 朝日小学生新聞　より　＞

五月（ごがつ）の蠅（はえ）と書いて、「五月蠅（うるさ）い」と読むのは、とても面白（おもしろ）いですね。この解説（かいせつ）を読（よ）むと、なるほどと思います。
俳句（はいく）の季語（きご）に注目（ちゅうもく）するだけで、漢字（かんじ）や日本語（にほんご）の面白さに気（き）づくことができますね。
合（あ）わせて、独特（どくとく）な読み方（かた）の漢字クイズを出（だ）しますので、チャレンジしてみてください。